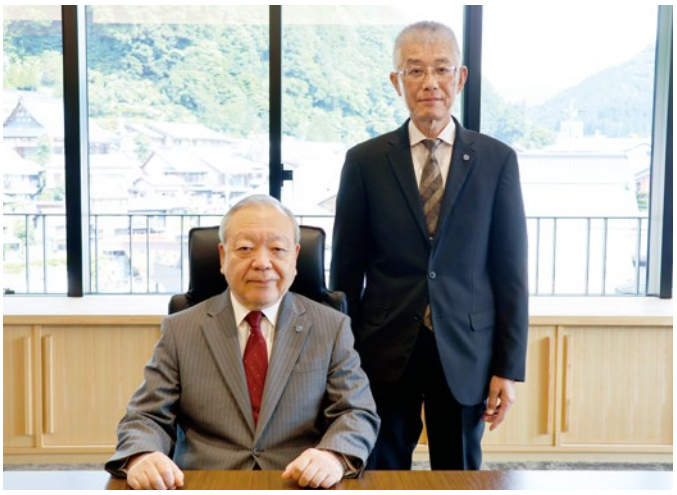
ごあいさつ

皆様方には、平素より私ども八幡信用金庫をご利用、お引き立ていただき、誠に有り難く厚くお礼申し上げます。

本年も当金庫をより一層ご理解いただくため、ディスクロージャー誌2026「はちしんナウ」を発刊いたしました。本誌をご一読いただき、当金庫をさらに身近に感じていただければ幸いです。



会長 木下節夫　　理事長 飛田和宣

令和7年度の国内経済は、トランプ政権の相互関税政策による下押し圧力があったものの、賃上げの継続によって所得環境が良好に推移していること等が下支えとなり、緩やかな回復基調を辿りました。

また、米国経済は、関税政策による景気への影響が懸念されたものの、個人消費の底堅さに加えてAI関連への設備投資が後押しし堅調な推移を辿りました。

一方、本年2月下旬には、米国･イスラエルとイランの軍事衝突によってエネルギー輸送の要衝であるホルムズ海峡が事実上封鎖されました。中東情勢の緊迫化を背景とした原油価格の高騰やサプライチェーンの混乱は当地域経済にも波及し、当金庫のお取引先に対して幅広い影響を及ぼす懸念があったことから、当金庫では全営業店に「ご相談窓口」を設置し、お取引先の資金繰り支援等に万全を期すこととしました。

このような状況下、当金庫は、令和5年度を計画初年度とする第3次中期経営計画「創造、そして未来へ」（令和5年度～令和7年度）に基づき、お客さま本位の営業活動の深化や地域との関係性強化、組織力の向上、業務効率化やデジタル化の推進等に取り組んでまいりました。

計画最終年度となる令和7年度の業績につきましては、預金積金残高が前期比16億32百万円減少の1,264億3百万円、貸出金残高が前期比4億52百万円減少の315億95百万円となったものの、収益面では、有価証券利息配当金をはじめとした資金運用収益が前期比5億8百万円増加の27億28百万円となり、経常利益は前期比5億34百万円増加の13億20百万円、当期純利益は前期比4億97百万円増加の9億25百万円となりました。

令和8年度は、第4次中期経営計画「共創～地域とともに創る未来～」（令和8年度～令和10年度）のスタートの年であるとともに、当金庫にとっては、記念すべき創業100周年を迎える事業年度となります。激変する経営環境下ではありますが、計画に掲げた諸施策を着実に実現させていくことによって、当金庫はこれからも、「地域に役立つ信用金庫」として、地域経済の活性化と持続的な発展に貢献してまいる所存でございますので、今後ともご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和8年7月　会　長　木下節夫

理事長　飛田和宣